

明治期日欧言語交流史の一研究

—— 市川義夫纂訳『英和和英字彙大全』における訳語収載状況をめぐって ——

坂 本 浩 一

はじめに

現代日本語語彙体系において、漢語は重要な座を占めている。そしてその漢語語彙は明治期に大きな躍進を遂げた。当代の対訳辞書資料には新たに造出或いは応用利用された漢語が豊富に収載されており、語彙展開の諸相を窺うことができる。

今回は、いわゆる第二次英学書ブーム期^(注1)最中の明治18年に刊行された『英和和英字彙大全』^(注2)を主たる対象として、先行対訳辞書資料『英語節用集』所収漢語語彙に関わる調査を基軸とし、『哲学字彙』『新撰英和字典』など当代周辺辞書資料の情報を含めたデータの蓄積及び個別の語彙の検討をさらに進めて行きたい。

1 調査対象資料

『英和和英字彙大全』は島田三郎の校訂、市川義夫の纂訳によって編集出版された対訳辞書であり、書名の示す通り英和の部と和英の部の二部で構成される。

出版背景の事情を窺えるものとしては、箕作麟祥が寄せた「題言」があり、そこでは維新後の英学盛行の情勢や国際外交交渉レベルでの英語の必要性について述べ立て、世に英語学習の機運が満ちていることを説く。それを支えるべき英和辞書世界において、柴田子安の英和字彙やヘボンの和英語林集成

をはじめ数種のものが国家的便益を与えてはいるものの、「猶未其完全具備シタル英和对訳ノ字書アルヲ聞カザルナリ」と断ずる。その上で、市川義夫の該書は「旧ヲ捨テ新ヲ取り訳語モ亦極メテ正確ナル者ヲ選ヒ」、「本邦在来ノ英和对訳字書中ニテ最モ完全具備シタル者」であり、「我国ノ開明ヲ助ケ外国ノ交際ヲ盛ナラシムルノ一大要具」であると讃えている。

一方で、市川自身によるローマ字緒言においては、近時世に出回る英和辞書について、「イマダモッテヤマトナシウミトナスニタラズ タダヒトカタマリノツチ ヒトシズクノミズニ スギザルノミ」(便宜のため稿者によるカナ翻字を示す。以下同。)と、英語世界に山を築き大海を成す上で不十分であることを指摘した上で、『英和和英字彙大全』こそが「ロッキーザンノタカキヲノゾマシメ」「アトランティックヨーノフカキヲシラシメントスル」ものであることを一旦誇る。しかしながら、「ホンショノハンレイノゴトキハ ゲンザイヨニオコナワルルトコロノタイヤクジショノレイニナライタレバ アエテココニシルサズ」と既存辞書との差異がない部分があることも包み隠さず示すなどしており、殊更に自書の優越ばかりを並べ立てることはしない謙虚さと同時に、経済性合理性を重んじる編者の方針というものを読み取ることができる。

2 調査方法

本論文においても、これまで集積してきたデータ作成要領に倣い、まずは『英語節用集』が訳語に二字漢字表記語を挙げている英語見出し項目477に関して、『英和和英字彙大全』英和の部における立項の有無、掲出訳語の一致状況等について確認することとする^(注3)。当該英語見出し語が立項されておりかつ当該二字漢字表記語の掲出が見られれば「○」、立項されるが訳語記述に当該漢字表記語が見あたらなければ「△」、英語見出し語が立項されていない場合は「－」の要領で、データベース資料を作成して行った。

3 『英和和英字彙大全』と周辺対訳辞書資料との訳語調査データ概観

当代の対訳辞書資料群を対象としたこれまでの研究データを合わせて、全体の概要を表1として示す^(注4)。

表 1

		『英語節用集』所収部名	宗哲	學術	宗応	人官	政法	政応	堂処	年歴	計
『英語節用集』明17		各所収部所属全項目数	135	61	284	160	123	93	40	18	914
		上記各項目数の全体内比率	14.8%	6.7%	31.1%	17.5%	13.5%	10.2%	4.4%	2.0%	100.0%
		各所収部内の二字漢字表記語数	3	8	250	65	55	72	14	10	477
		上記二字漢字表記語の当該所収部内における比率	2.2%	13.1%	88.0%	40.6%	44.7%	77.4%	35.0%	55.6%	52.2%
第一次英学書ブーム期(1)	『英和掌中字典』明6	対応する〔○型〕項目数	1	5	65	15	6	2	3	3	100
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	62.5%	26.0%	23.1%	10.9%	2.8%	21.4%	30.0%	21.0%
		対応する〔△型〕項目数	0	3	141	35	27	54	8	4	275
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	37.5%	56.4%	53.8%	49.1%	75.0%	57.1%	40.0%	57.7%
		対応する〔一型〕項目数	2	0	44	15	22	16	3	3	102
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	66.7%	0.0%	17.6%	23.1%	40.0%	22.2%	21.4%	30.0%	21.4%
	『写真石版附音捕図英和字彙』明18(復刻)	対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477
		対応する〔○型〕項目数	0	6	84	25	18	17	6	3	159
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	75.0%	33.6%	38.5%	32.7%	23.6%	42.9%	30.0%	33.3%
		対応する〔△型〕項目数	1	2	134	29	20	46	7	6	245
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	25.0%	53.6%	44.6%	36.4%	63.9%	50.0%	60.0%	51.4%
		対応する〔一型〕項目数	2	0	32	11	17	9	1	1	73
第二次英学書ブーム期(2) A	『華英字典』明14	対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	66.7%	0.0%	12.8%	16.9%	30.9%	12.5%	7.1%	10.0%	15.3%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477
		対応する〔○型〕項目数	1	5	35	13	5	6	2	2	69
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	62.5%	14.0%	20.0%	9.1%	8.3%	14.3%	20.0%	14.5%
		対応する〔△型〕項目数	0	2	151	37	21	40	9	4	264
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	25.0%	60.4%	56.9%	38.2%	55.6%	64.3%	40.0%	55.3%
		対応する〔一型〕項目数	2	1	64	15	29	26	3	4	144
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	66.7%	12.5%	25.6%	23.1%	52.7%	36.1%	21.4%	40.0%	30.2%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477

第二次英学書 ブーム期 (2) B i	「英和袖珍字彙」 明17	対応する〔○型〕項目数	1	5	79	19	14	4	4	3	129
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	62.5%	31.6%	29.2%	25.5%	5.6%	28.6%	30.0%	27.0%
		対応する〔△型〕項目数	0	3	131	34	24	54	7	4	257
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	37.5%	52.4%	52.3%	43.6%	75.0%	50.0%	40.0%	53.9%
		対応する〔－型〕項目数	2	0	40	12	17	14	3	3	91
		対応する〔－型〕の二字漢字表記語内比率	66.7%	0.0%	16.0%	18.5%	30.9%	19.4%	21.4%	30.0%	19.1%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477
		対応する〔○型〕項目数	1	7	93	18	19	23	8	4	173
	「学校用英和字典」 明18	対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	87.5%	37.2%	27.7%	34.5%	31.9%	57.1%	40.0%	36.3%
		対応する〔△型〕項目数	1	1	119	37	14	40	5	3	220
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	12.5%	47.6%	56.9%	25.5%	55.6%	35.7%	30.0%	46.1%
		対応する〔－型〕項目数	1	0	38	10	22	9	1	3	84
		対応する〔－型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	0.0%	15.2%	15.4%	40.0%	12.5%	7.1%	30.0%	17.6%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477
		対応する〔○型〕項目数	0	6	94	25	18	20	5	3	171
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	75.0%	37.6%	38.5%	32.7%	27.8%	35.7%	30.0%	35.8%
	「英和正辞典」 明18	対応する〔△型〕項目数	1	2	125	29	22	44	6	6	235
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	25.0%	50.0%	44.6%	40.0%	61.1%	42.9%	60.0%	49.3%
		対応する〔－型〕項目数	2	0	31	11	15	8	3	1	71
		対応する〔－型〕の二字漢字表記語内比率	66.7%	0.0%	12.4%	16.9%	27.3%	11.1%	21.4%	10.0%	14.9%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477
		対応する〔○型〕項目数	0	6	83	19	13	19	5	3	148
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	75.0%	33.2%	29.2%	23.6%	26.4%	35.7%	30.0%	31.0%
		対応する〔△型〕項目数	0	2	122	31	19	36	6	4	220
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	25.0%	48.8%	47.7%	34.5%	50.0%	42.9%	40.0%	46.1%
	「英和正辞典」 明18	対応する〔－型〕項目数	3	0	45	15	23	17	3	3	109
		対応する〔－型〕の二字漢字表記語内比率	100.0%	0.0%	18.0%	23.1%	41.8%	23.6%	21.4%	30.0%	22.9%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477

第二次英学書ブーム期(2) B i	「新撰初学英和辞書」明18	対応する〔○型〕項目数	0	7	74	19	13	19	7	5	144
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	87.5%	29.6%	29.2%	23.6%	26.4%	50.0%	50.0%	30.2%
		対応する〔△型〕項目数	0	0	121	28	16	37	3	2	207
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	0.0%	48.4%	43.1%	29.1%	51.4%	21.4%	20.0%	43.4%
		対応する〔一型〕項目数	3	1	55	18	26	16	4	3	126
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	100.0%	12.5%	22.0%	27.7%	47.3%	22.2%	28.6%	30.0%	26.4%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477
	「訂訳大全英和辞書」明18	対応する〔○型〕項目数	0	7	133	20	11	29	6	5	211
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	87.5%	53.2%	30.8%	20.0%	40.3%	42.9%	50.0%	44.2%
		対応する〔△型〕項目数	0	1	93	33	21	33	6	4	191
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	12.5%	37.2%	50.8%	38.2%	45.8%	42.9%	40.0%	40.0%
		対応する〔一型〕項目数	3	0	24	12	23	10	2	1	75
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	100.0%	0.0%	9.6%	18.5%	41.8%	13.9%	14.3%	10.0%	15.7%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477
	「新撰英和字典」明19	対応する〔○型〕項目数	3	8	179	34	31	60	6	8	329
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.9%	2.4%	54.4%	10.3%	9.4%	18.2%	1.8%	2.4%	69.0%
		対応する〔△型〕項目数	0	0	56	25	7	6	5	2	101
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	0.0%	22.4%	38.5%	12.7%	8.3%	35.7%	20.0%	21.2%
		対応する〔一型〕項目数	0	0	15	6	17	6	3	0	47
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	0.0%	6.0%	9.2%	30.9%	8.3%	21.4%	0.0%	9.9%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477
第二次英学書ブーム期(2) B ii	「英和字海」明20	対応する〔○型〕項目数	0	5	122	24	14	22	6	3	196
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	62.5%	48.6%	36.9%	25.5%	30.6%	42.9%	30.0%	41.1%
		対応する〔△型〕項目数	0	3	96	29	18	39	5	5	195
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	37.5%	38.2%	44.6%	32.7%	54.2%	35.7%	50.0%	40.9%
		対応する〔一型〕項目数	2	0	33	12	23	11	3	2	86
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	100.0%	0.0%	13.1%	18.5%	41.8%	15.3%	21.4%	20.0%	18.0%
		対応する二字漢字表記語合計	2	8	251	65	55	72	14	10	477
	「英和小学彙」明20	対応する〔○型〕項目数	0	7	73	20	12	20	6	6	144
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	87.5%	29.2%	30.8%	21.8%	27.8%	42.9%	60.0%	30.2%
		対応する〔△型〕項目数	0	0	121	27	17	37	4	2	208
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	0.0%	48.4%	41.5%	30.9%	51.4%	28.6%	20.0%	43.6%
		対応する〔一型〕項目数	3	1	56	18	26	15	4	2	125
		対応する〔一型〕の二字漢字表記語内比率	100.0%	12.5%	22.4%	27.7%	47.3%	20.8%	28.6%	20.0%	26.2%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477

第二次英学書アーム期(2) B ii	「插画訂訳英和対訳新辞林」明20	対応する〔○型〕項目数	0	4	105	21	10	6	4	1	151
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	50.0%	42.0%	32.3%	18.2%	8.3%	28.6%	10.0%	31.7%
		対応する〔△型〕項目数	0	4	121	33	21	56	8	8	251
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	50.0%	48.4%	50.8%	38.2%	77.8%	57.1%	80.0%	52.6%
		対応する〔－型〕項目数	3	0	24	11	24	10	2	1	75
		対応する〔－型〕の二字漢字表記語内比率	100.0%	0.0%	9.6%	16.9%	43.6%	13.9%	14.3%	10.0%	15.7%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477
	「新訳英和字典」明21	対応する〔○型〕項目数	0	7	138	23	11	30	7	5	221
		対応する〔○型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	87.5%	55.2%	35.4%	20.0%	41.7%	50.0%	50.0%	46.3%
		対応する〔△型〕項目数	0	1	86	30	21	32	6	4	180
		対応する〔△型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	12.5%	34.4%	46.2%	38.2%	44.4%	42.9%	40.0%	37.7%
		対応する〔－型〕項目数	3	0	26	12	23	10	1	1	76
		対応する〔－型〕の二字漢字表記語内比率	100.0%	0.0%	10.4%	18.5%	41.8%	13.9%	7.1%	10.0%	15.9%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477
明治20年代大型集成的対訳辞書(3)	「漢英対照いろは辞典」明21	対応する立項〔○型〕項目数	2	6	194	52	45	54	10	9	372
		対応する立項〔○型〕の二字漢字表記語内比率	66.7%	75.0%	77.6%	80.0%	81.8%	75.0%	71.4%	90.0%	78.0%
		対応する不立項〔－型〕項目数	1	2	56	13	10	18	4	1	105
		対応する不立項〔－型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	25.0%	22.4%	20.0%	18.2%	25.0%	28.6%	10.0%	22.0%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477
	「漢語英訳辞典」明22、25	対応する立項〔○型〕項目数	2	6	193	46	41	51	10	10	359
		対応する立項〔○型〕の二字漢字表記語内比率	66.7%	75.0%	77.2%	70.8%	74.5%	70.8%	71.4%	100.0%	75.3%
		対応する不立項〔－型〕項目数	1	2	57	19	14	21	4	0	118
		対応する不立項〔－型〕の二字漢字表記語内比率	33.3%	25.0%	22.8%	29.2%	25.5%	29.2%	28.6%	0.0%	24.7%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477
現代国語辞書(4)	「岩波国語辞典7版」平成24	対応する立項〔○型〕項目数	3	8	219	58	40	62	12	10	412
		対応する立項〔○型〕の二字漢字表記語内比率	100.0%	100.0%	87.6%	89.2%	72.7%	86.1%	85.7%	100.0%	86.4%
		対応する不立項〔－型〕項目数	0	0	31	7	15	10	2	0	65
		対応する不立項〔－型〕の二字漢字表記語内比率	0.0%	0.0%	12.4%	10.8%	27.3%	13.9%	14.3%	0.0%	13.6%
		対応する二字漢字表記語合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477

『英和和英字彙大全』は表の通り、〔○型〕合計は35.8%となっている。〔○型〕数値が30～40%にあるのが波線枠で囲む『学校用英和字典』『英和和英字彙大全』、40%を超えて高いものが極太線枠の『訂訳大全英和辞書』『新撰英和字典』『英和字海』『新訳英和字彙』であり、10年代末20年代初に向けて次第に増えて行く傾向がある。ここで、表内の英和辞書資料群を〔○型〕数値によって分類して示すと、表2のようになる。

表2

		〔○型〕数値			
		10～ 30%	30～ 35%	35～ 40%	40～ 70%
第一次 ブーム期		『英和掌中字典』明6	○		
		『写真石版附音挿図英和字彙』 (明18 ※『附音挿図英和字彙』初版の復刻)		○	
第二次 ブーム期	A	『華英字典』明14(1月刊)	○		
		『英和袖珍字彙』明17	○		
		『学校用英和字典』明18		○	
		『英和和英字彙大全』明18		○	
	B i	『英和正辞典』明18		○	
		『新撰初学英和辞書』明18		○	
		『訂訳大全英和辞書』明18			○
		『新撰英和字典』明19			○
		『英和字海』明20			○
	B ii	『英和小字彙』明20		○	
		『插画訂訳英和对訳新辞林』明20		○	
		『新訳英和字彙』明21			○

『哲学字彙』I版の刊行が明治14年4月、それ以降に成立する英和辞書はその影響を受ける可能性を想定できる訳であるが、『哲学字彙』の利用を明記している『英語節用集』収載訳語との一致を示す〔○型〕の数値が第二次英学書ブーム期の進行とともに次第に高まって行く様が、表2において確認できる。

辞書の踏襲性・因習性という性格から、辞書の規模が大きくなればなるほど作業コスト抑制の経済性と独自性進化の欲求との間で揺れ動く編者は、なかなか大きな変化に踏み出せない実態にあることは間違いない。そうしたジレンマ・懊悩の中で、『英和和英字彙大全』はちょうど第二次英学書ブーム期の低い数値から20年前後の高い数値のステージへと移行する過渡期的様相を示すものであったようである。『哲学字彙』が拓いた学術専門用語英和対応提示の本格的導入は、『英語節用集』のような小規模語彙集にも中型英和辞書

群にも着実に根を張り普及する流れを形成して行ったのである。

4 『英和和英字彙大全』調査対象訳語の明治20年代大型集成辞書・現代日用辞書収載状況

『英和和英字彙大全』477項目の調査対象訳語について、明治20年代の大型集成辞書『漢語英訳辞典』における見出し立項状況と現代日用の国語辞書『岩波国語辞典 第7版』での立項状況とを確認し三資料間での対応パターン別に分類すると、表3のようになる。〔〇－〇〕型ならば、『英和和英字彙大全』で〔〇型〕、『漢語英訳辞典』で立項されず「－」、『岩波国語辞典 第7版』で立項されて「〇」で対応する、といった要領である。

表3

	『英語節用集』 所収部名	宗哲	学術	宗応	人官	政法	政応	堂処	年歴	各型 小計	各型内構成 比率 (%)	全体内構成 比率 (%)
『英和和英字彙大全』で〔〇〕型（該語掲出型）	〔〇〇〇〕型	0	4	80	22	16	16	4	3	145	84.8%	30.4%
	同上型内比率 (%)	0.0%	2.8%	55.2%	15.2%	11.0%	11.0%	2.8%	2.1%			
	〔〇〇－〕型	0	0	1	0	2	1	0	0	4	2.3%	0.8%
	同上型内比率 (%)	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%			
	〔〇－〇〕型	0	2	12	2	0	2	1	0	19	11.1%	4.0%
	同上型内比率 (%)	0.0%	10.5%	63.2%	10.5%	0.0%	10.5%	5.3%	0.0%			
	〔〇－－〕型	0	0	1	1	0	1	0	0	3	1.8%	0.6%
	同上型内比率 (%)	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%			
	〔〇〕型小計	0	6	94	25	18	20	5	3	171	100.0%	35.8%
	同上型内比率 (%)	0.0%	3.5%	55.0%	14.6%	10.5%	11.7%	2.9%	1.8%			
『英和和英字彙大全』で〔△〕型（別語掲出型）	〔△〇〇〕型	0	2	81	16	17	30	4	6	156	66.4%	32.7%
	同上型内比率 (%)	0.0%	1.3%	51.9%	10.3%	10.9%	19.2%	2.6%	3.8%			
	〔△〇－〕型	0	0	8	0	0	2	0	0	10	4.3%	2.1%
	同上型内比率 (%)	0.0%	0.0%	80.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%			
	〔△－〇〕型	1	0	19	8	2	8	0	0	38	16.2%	8.0%
	同上型内比率 (%)	2.6%	0.0%	50.0%	21.1%	5.3%	21.1%	0.0%	0.0%			
	〔△－－〕型	0	0	17	5	3	4	2	0	31	13.2%	6.5%
	同上型内比率 (%)	0.0%	0.0%	54.8%	16.1%	9.7%	12.9%	6.5%	0.0%			
	〔△〕型小計	1	2	125	29	22	44	6	6	235	100.0%	49.3%
	同上型内比率 (%)	0.4%	0.9%	53.2%	12.3%	9.4%	18.7%	2.6%	2.6%			

『英和英字彙大全』で「 <u>〇</u> 」型(不立項型)	〔-〇〇〕型	2	0	21	8	5	2	2	1			
	同上型内比率(%)	4.9%	0.0%	51.2%	19.5%	12.2%	4.9%	4.9%	2.4%	41	57.7%	8.6%
	〔-〇-〕型	0	0	2	0	1	0	0	0			
	同上型内比率(%)	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	3	4.2%	0.6%
	〔--〇〕型	0	0	6	2	0	4	1	0			
	同上型内比率(%)	0.0%	0.0%	46.2%	15.4%	0.0%	30.8%	7.7%	0.0%	13	18.3%	2.7%
	〔---〕型	0	0	2	1	9	2	0	0			
	同上型内比率(%)	0.0%	0.0%	14.3%	7.1%	64.3%	14.3%	0.0%	0.0%	14	19.7%	2.9%
	〔-〕型小計	2	0	31	11	15	8	3	1			
	同上型内比率(%)	2.8%	0.0%	43.7%	15.5%	21.1%	11.3%	4.2%	1.4%	71	100.0%	14.9%
	全体合計	3	8	250	65	55	72	14	10	477	-	100.0%

以下、各対応パターン群別にデータリストを示していくこととするが、ここでは〔〇型〕・〔△型〕グループを中心に取り上げて検討を加えてみたい。

4-1 〔〇〕型

4-1-1 〔〇〇〇〕型

明治中期、現代と比較的安定して日本語語彙体系に座を占め日用的に使われていると見られる語群となる。明治17年刊行『哲学字彙』Ⅱ版に当該英語項目があり、同一訳語形が挙げられているものには下線を付している。

〔〇〇〇〕型データリスト

【学術】化学/Chemistry ← Chemistry* 数学/Mathematics 語学/Philology ← Phylology* 文学/Literature 【宗仏】地獄/Hell 偶像/Idol 慈悲/Grace ① 靈魂/Soul 感覚/Sensation 虚無/Void 気力/Vigour 禁止/Confinement 性質/Character 信用/Belief 集会/Assemble 異説/Dissent 智慧/Wisdom 議論/Debate 不朽/Perpetuity 題目/Thesis 教会/Congregation 熱心/Zeal 名目/Name 心痛/Pang 自殺/Suicide 楽譜/Music-book 空虚/Vacuum 洗礼/Baptism 慈悲/Grace ② 清浄/Purity 神聖/Holiness 正直/Justness ← Jastness* 民情/Nationality ① 寺領/Parish 説法/Preaching 魔法/Incantation 天命/Providence 自負/Self-confidence 狡猾/Cunning 独立/Independence 改宗/Convert 便利/Convenient 会議/Convention ① 永続/Continued 争論/Contention 嫉妬/Jealousy 裁判/Judicature 侵入/Invasion ← Invasion* 一般/General 衰微/Decline 結合/Coalescence 音楽/Music 編輯/Compilation

内部 /Interior 公会 /Parliament ← Partiamment * 生活 /Life 骸骨 /
 Skeleton 名誉 /Honor 関係 /Consequence 戒心 /Caution 旅行 /
 Travel 臆説 /Hypothetical 教育 /Education 愛情 /Love 比較 /
 Compare 妄想 /Fanciful 石碑 /Monument ← Manumend * 遺物 /
 Relics 攻撃 /Attack 餓死 /Starve ← Staved * 抵抗 /Resist 戦争 /
 Warfare 自由 /Liberty 才智 /Intelligence 無形 /Spiritual 道理 /
 Reason 一揆 /Insurrection 世界 /World 愛情 /Inclination 混沌 /
 Chaos 名声 /Reputation 全能 /Almighty ← Almight * 天使 /Angel
 創造 /Creation 【人官】 隠者 /Eremit 紳士 /Gentle-man 商人 /
 Merchant 貴族 /Noble-man 国民 /Nation 兵卒 /Soldier 伶人 /
 Musician 奴隸 /Slave 囚人 /Prisoner 官員 /Officer 老人 /Oldman
 子孫 /Offspring 医者 /Physician ① 両親 /Parent 兄弟 /Brother 姉
 妹 /Sister 叔父 /Uncle 女王 /Queen ← Queen * 盲目 /Blind 博士 /
 Professor 惡漢 /Wretch 主宰 /Ruler 【政法】 刑法 /Criminal-law 平
 安 /Peace ① 政府 /Government 租税 /Taxation 革命 /Revolution ②
 王国 /Kingdom 帝国 /Empire 市区 /Municipality 民情 /Nationality ②
 憲法 /Consti-tution 立法 /Legislative-power 管轄 /Govern 内閣 /
 Cabinet 県令 /Governor of province ← Governor of provinc * 商議 /
 Negotiation 命令 /Order ② 【政応】 同盟 /Alliance 補任 /Appoint-
 ment 結合 /Combination 黙許 /Tacit-consent 勢力 /Energy 無罪 /
 Inno-cence 義気 /Patriotism 反逆 /Rebellion 服従 /Homage 交誼 /
 Friendship 平安 /Peace ② 特許 /Privilege ← Privilage * 未決 /
 Problematic 遁辞 /Quibble 規則 /Rule 許容 /Toleration 【堂処】 鐘
 楼 /Belfry 宮殿 /Palace 銀行 /Bank 病院 /Hospital 【年歴】 歴史 /
 History 服従 /Subjection 総計 /Totality

これらの語群においては、下線が付してある『哲学字彙』Ⅱ版の訳語掲出
 と一致しているものが多く見られる。『哲学字彙』→『英語節用集』の影響と
 同時に『哲学字彙』→『英和英字彙大全』の一致が重なって見られたこと
 で、この明治10年代後期において学術専門性が高い用語集成である『哲学字
 彙』の訳語が英語学習用の一般通用英和辞書に進出し定着して行く過程を反
 映したものとして注目できる。

ただ、各辞書間の記述具合を仔細に観察してみると、その過程は単純なものではなかったことも分かる。例えば「愛情/Love」については、『哲学字彙』の版による記述の違いとその反映について興味深い有様が見て取れた。

・『哲学字彙』Ⅰ版 愛情 ・『哲学字彙』Ⅱ版 親愛 恋情

→ 『英語節用集』 愛情

『英和和英字彙大全』 愛情 寵愛 仁恵 恋慕 愛国ノ情 愛着

※『新撰英和字典』恋 寵愛 仁恵 愛国ノ情 愛者 (哲) 恋情 親愛

・『英独仏和 哲学字彙』愛 親愛 恋情 愛好 恋愛 愛情

『哲学字彙』においては、Ⅰ版で「愛情」一語が掲出されながらⅡ版で別訳語二語に差し替えられている。Ⅱ版で挙げられた「親愛 恋情」は『英語節用集』『英和和英字彙大全』では取り挙げられないが、例えば明治19年刊『新撰英和字典』では哲学用語という注記付きで収載されている。『哲学字彙』はたしかに後続英和辞書に影響を与えているが、各辞書の訳語採用の把握には版別の影響なりを細かに検討する必要があるということが分かる。

「Love」の項目については如上の内容であるが、『英語節用集』で同じく「愛情」訳語を掲げる「Inclination」項目に関して見れば、『哲学字彙』はⅠ版が「偏向 性癖」、Ⅱ版が「偏向 性癖 意奴」、明治末年の『英独仏和 哲学字彙』では「偏向 性癖 意向 傾向」と「意奴」の廃止、「意向 傾向」の収載というように興味深い訳語の展開が見られるが、いずれにせよ該資料ではどの版でも「愛情」を挙げることがない。『和英語林集成』英和の部でもⅠ・Ⅱ・Ⅲ版ともに「Inclination」の訳語掲出に「愛情」は見られないといったこともあるが、一方で『訂訳大全英和辞書』（明治18年刊）『新撰英和字典』（明治19年刊）『英和字海』（明治20年刊）『新訳英和字彙』（明治21年刊）など「愛情」を採用する辞書群もあり、『英語節用集』の振る舞いとも合わせて当代の「Inclination」対応訳語については大いに着目すべきところがある。

4-1-2 【〇〇-】型

当該訳語について明治20年代半ばの大型集成辞書見出し項目として立てられるが、現代日用の『岩波国語辞典第7版』には見出し立項されていないということで、現代において一般に普及しているとは言えないグループである。

【〇〇-】型データリスト

【宗応】記憶/Memory 【政法】民政/Democracy 政法/Policy ② 【政
応】廉節/Temperance

「Democracy」の訳語掲出については、『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版が「民政」のみ示したことをめぐって、『哲学字彙』を積極的に利用した『新撰英和字典』が「民政」を採用せず「共和政治」を掲げるなど現代に通じる道を示していたことがあった。しかしながら、当代においては『学校用英和字典』や『英和英袖珍字典』といった両訳語を併用する辞書も見られるところに、やはり『哲学字彙』の一定の影響力を窺うことができるのであり、この点は既に指摘したところでもあった^(注5)。『英和英字彙大全』においても両語形の併記が見られたが、「共和政治」を先に提示するのに対して「民政」語形は後回しの扱いとなっていて、現代の国語辞書『岩波国語辞典 第7版』で立項されず日用の語としては勢いを失う有様を示唆する記述ぶりとなっている。

「Policy」項についても、『哲学字彙』Ⅰ版の「政法 権道 術数」に対して『哲学字彙』Ⅱ版が「政法 権道 術数 政略」と現代通用の語である「政略」が新たに訳語列に加えられる。これについては、例えば同時代の『新撰英和字典』が「政法 権道 術数」を哲学用語として特別に扱う注記をつける一方「政略」を通常扱いの訳語列7語の筆頭に掲げる対応を取っていたことなどを併せて考えれば、やがて「政法」がこれに取って代わられる流れに連なる兆しを示すものと見ることができよう。

4-1-3 【○-○】型

明治20年代半ばの大型集成辞書『漢語英訳辞典』においては見出し項目として採用されなかったものの、現代国語辞書『岩波国語辞典第7版』に立項される扱いとなっているグループである。

〔○-○〕型データリスト

【學術】神学/Theology 詩学/Poesy 【宗応】樂園/Paradise ← Paradise *
虚忘/Absurd 画像/Portrait 預知/Prescience ← Precience * 固執/
 Bigotry 不正/Wrong 預言/Prophesy 後住(寺ノ)/Provisor 供物/
 Sacrifice 略説/Summary 神経/Nerve 殖民/Settler ← Settled 【人
官】巫女/Witch 齒医/Dentist 【政応】競争/Struggle ① 同情/
 Sympathy 【堂処】墓地/Church-yard

「Prophesy」項は『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版「預言」を受けていると見られるが、「預言」が『漢語英訳辞典』において立項されていないことについては、

『新撰英和字典』が「占フ (哲) 預言スル 未来ノ事ヲ説ク」と通常訳語として和語動詞「占フ」のみ掲げ「(哲)」表示扱いで「預言」を後回しとしている扱いからすると、『哲学字彙』の挙げた「預言」を専門用語として採用する辞書が見られる一方で、該語を日用通常の訳語として処遇することには未だ積極的になれないといった事情が当代にはあったと考えることもできようか。

「Summary」項は、『哲学字彙』Ⅰ版に立項されずⅡ版で「要領」を掲げて立項されており、『英和和英字彙大全』に当該訳語は採用されていない。『新撰英和字典』では「略説 要略 拔萃 (哲) 要領」とあり、通常訳語列の筆頭に「略説」が置かれることで『英和和英字彙大全』が「略説」を掲出する態度と重なりつついて当代の掲載訳語としてそれなりの座を占めることを示す一方で、『哲学字彙』の掲出する「要領」は「(哲)」と付す専門用語としての扱いとなっており「要領」が現代国語辞書に掲載される日用普通の語とは見られていなかった事情を窺うこともできる。そのことが『漢語英訳辞典』での「要領」の見出し不採用といった情勢の背景になっているのかもしれない。

「Struggle」の対応訳語については、『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版「競争」を受けたものと見られるが、『英和和英字彙大全』で「勞力 辛苦 勉強 艱難 競争」と再末尾の掲出となっている。『新撰英和字典』が「辛苦 勞力 勉強 艱難 (哲) 競争」と専門用語扱いとしており通常訳語群とは別扱いとしていることが目に付く。実は、『英和和英字彙大全』の後継辞書となる市川纂訳明治21年刊行『英和和英袖珍字典』の記述においては、「勞力 辛苦 勉強 (ペンキヤウ) 艱難 (カンナン) 争競 (アラソヒ)」^(注6)となっており、『英和和英字彙大全』の「競争」が字順転倒語形「争競」と差し替えられていることも併せて考えれば、当代二字漢語「競争」は「Struggle」の訳語としてはまっとうな扱いというよりは特別に処理されやすいものとして辞書編者たちの目に映るものであったことも想像できる。『漢語英訳辞典』に「競争」が不立項である事情を十分に追究する余裕はここにはないのであるが、如上の特別な扱いを受けやすかった状況にあったこととどのような関わりをもっているのか、大いに気にかかるところである。

4-1-4 【〇--】型

『英和和英字彙大全』に掲出された後、『漢語英訳辞典』見出し項目として立項されず、現代通用の『岩波国語辞典第7版』においても立項されていないグループである。

【〇--】型データリスト

【宗応】有体/Corporeal 【人官】耶蘇/Christ 【政応】種属/Race ①

「Race」項においては、『哲学字彙』I・II版「種属（世）」を受けて『英和和英字彙大全』は「種属 血統 苗裔 子孫 出所 根 品種 酒香」と当該訳語を筆頭に据えた記述が見られた。『新撰英和字典』では「族類 子孫 血統 苗裔 根 出処 酒香 （社）種属（生）特種又類」と、専門用語辞書『哲学字彙』の訳語「種属」を通常訳語ではなく専門用語扱いで掲載しており、当代において「種属」が『哲学字彙』の影響下で学術専門用語としての地位を獲得していたことが分かる。しかしながら、専門用語として力を持っていた一時期の後には、『漢語英訳辞典』不立項が示すよう次第に語そのものの退潮を経て現代日用国語辞書で姿を消すという状況に立ち至ったものと見られる。

4-2 【△型】

4-2-1 【△〇〇】型

『英和和英字彙大全』訳語は『英語節用集』掲出訳語と一致しないものの、『漢語英訳辞典』『岩波国語辞典 第7版』では『英語節用集』の訳語が見出し語として採用されており、現代では日用語として定着に至ったと見てよいグループである。

【△〇〇】型データリスト

【学術】科学/Science 哲学/Philosophy ← Phylosophy * 【宗応】宗教/Religion 天堂/Heaven ① 恭敬/Worship 私慾/Selfishness 真実/Real 誘惑/Temptation 社会/Society ① 正義/Justice ① 克己/Self-denial 蘇生/Revive 感動/Impression 驕慢/Pride 信仰/Devotion 原因/Cause 結果/Effect 宗徒/Apostle 道德/Morality 觀念/Idea 悲痛/Lamentation 憂愁/Sorrow 真理/Truth 感応/Feeling ① 術数/Policy ① 方便/Mean 偏執/Bias 施物/Almonry 金言/Aphorism

讚美/Approbation 憐愍/Pity 名辭/Term 不幸/Unfortunate 利用/
 Utility 奇遇/Accident 驚愕/Wonder 瑞相/Lucky-omen ← Luchy-
 omen * 門派/System ← Sistem * 淨土/Purgatory 究竟/
 Ultimate ← Ultimote * 真如/Reality 上天/Heaven ② 解釈/
 Explanation 絶對/Absolute 發明/Invention 注意/Attention 奇談/
 Paradox ② ← Padox * 愚痴/Obtuseness 客舎/Public-house 高言/
 Rant 願望/Requisition 講談/Lecture ← Pecture * 差別/Difference
 平等/Equality ← Eequality * 歸服/Obedience 一致/Consort 落涙/
 Shed-tear 守護/Conservation 改革/Revolution ① 理論/Declamation
 和睦/Concord 社中/Company 外部/Exterior 單純/Similar 習慣/
 Custom ① 堪忍/Abstain 驕慢/Self-conceit 拝礼/
 Supplication ← Spplication * 文明/Civilization 意思/Will 有形/
 Physical 法則/Method 公平/Conscientiously 支配/Domination 死
 骸/Corpse ← Corse * 葬礼/Interment 慣習/Habit 風俗/Manner
 情緒/Emotion 異教/Gentilism 正教/Orthodox 有情/Sentient 非
 情/Insensible 【人官】僧正(邪教ノ)/Bishop 朋党/Party ① 信者/
 Believer 天狗/Cherubim 農民/Peasant 平民/Laity 皇族/Royal-
 family 碩儒/Polymathy 長官/President 出家/Monk 眷属/Kin 元
 祖/Originator 法師/Clerk 叔母/Aunt 門徒/Member ① 医師/
 Physician ② 【政法】国家/State 權利/Right 法制/Law ① 民法/
 Civil-law 軍律/Martial-law 国政/Polity 参議/Privy councillor 布達
 /Proclamation 広告/Notification 指令/Order ① 法律/Law ② 規則
 /Regulation ① 建白/Memorial 請願/Petition 家政/Economics 国
 法/Municipal-law 誤用/Misuse 【政応】徒党/Party ② 律令/Canon
 約定/Compact 要路/Compendium 完全/Complete 連絡/
 Connection 允許/Consent 抑制/Control 公会/Convention ② 節操
 /Continence 独断/Dogma 結局/Goal 教唆/Instigation 正義/
 Justice ② 償還/Payment 堅忍/Perseverance 口実/Pretension 主
 義/Principle 問題/Problem 理由/Rationale ← Rational * 贅言/
 Redundancy 駁撃/Refutation 条例/Regulation ② 會員/Member ②
 隠遁/Seclusion 撰択/Selection 定論/Theorem 理論/Theory 与論
 /Public-opinion 弁理/Transaction 【堂処】首府/Capital 市街/Street

旅館 /Hotel 関税 /Custom ② 【年歴】年代 /Age 闘争 /Struggle ②
 ← Struggle * 帰化 /Naturalization ← Naturali-gation * 事実 /Fact 人
 種 /Race ② 社会 /Society ②

「Science」項については、『哲学字彙』I・II版「理学 科学」に対して『英和英字彙大全』は「学 芸 学問 智慧 智識 博学」と『哲学字彙』の両語形をともに採用していない。なお、『新撰英和字典』では「学 学問 専門学 芸 知識 智慧 (哲)科学 理学」と両語形を専門用語として扱いかつ「科学」を先に掲げており「Science」訳語としての「理学」の相対的な地位の低下を窺わせるものでもあった。

「Philosophy」の訳語について、『哲学字彙』I・II版が「哲学」を掲げるのに対して『英和英字彙大全』は「理学 理論 理科」を挙げて一致語形が存しない。しかしながら、『英和英袖珍字典』においては、「理学 哲学 理論 理科」と訳語の2番目に「哲学」を掲出する。市川が手掛けた後継辞書では「哲学」の採用が遅れたのである。この背景として『新撰英和字典』の「知識ヲ愛スル義 理学 理科 理論 哲学 (此学ハ諸科学ノ資給スル材料ヲ統合シ以テ天地ノ流行スル間ニ自ラ変化セザルモノアルヲ尋究スルノ学ナリ即チ万化ノ由リテ起ル本源ヲ稽查スルノ学ナリ)」の記述ぶりが関心を引く。「哲学」は長字数の説明を要する新出の専門用語として、明治10年代の同類辞書編者たちの目には映るものであった事情が窺えるとともに、20年代に入ると市川が自身編纂の後継辞書中に登載すべきものとして該語を処遇したことは大いに注目できる。『哲学字彙』の採り上げた「哲学」をめぐることは、対訳辞書世界に興味深い反応を惹き起こしていたことが、これら辞書記述の検討からあぶり出されてきた次第である。

「Worship」の対応訳語に『英語節用集』が採用した「恭敬」は、『哲学字彙』はI版「礼拝 欽崇 恭敬」II版「礼拝 欽崇 敬拝 恭敬」と掲載されていたものである。『英和英字彙大全』は「貴重 尊敬 貴人ノ尊称 礼拝 祈念」と掲げており、『哲学字彙』のものでは「礼拝」が訳語に列せられる。『新撰英和字典』では「貴重 尊敬 祈念 貴人ノ尊称 (哲) 礼拝 欽崇 敬拝 恭敬」と『哲学字彙』II版記述を丸々「(哲)」付きの専門用語扱いとして収載するが、「礼拝」「恭敬」を通常訳語扱いではなく専門用語群に所属させる。『英和英字彙大全』がその語群で筆頭に挙げられた「礼拝」を

採用し「恭敬」を排したのは、両語形に対する編者の価値づけを窺わせるものとして注視したい。

「Cause」項において、『英和英字彙大全』は「所以 本源 因縁 道理 事故 詞訟 情由」と「原因」を採用しない。『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版の「原因 縁故 元由 本源」を『新撰英和字典』が「所以 道理 事故 詞訟 因縁 (哲) 原因 縁故 本源 元由」と専門用語扱いで遇したことに「原因」不採用の背景を窺えるかもしれない。しかし、同じ処遇の「本源」を『英和英字彙大全』は拾い上げていることから、このあたりの事情を解き明かすにはまだまだ多くの語彙情報を集積する必要がある。

「Apostle」項について『哲学字彙』Ⅰ版は項なし、Ⅱ版は立項し訳語「使徒」を載せる。『英和英字彙大全』は「耶蘇ノ徒弟 使僧 使者」、後継の『英和英袖珍字典』は「耶蘇(ヤソ)ノ徒弟(デシ) 使僧(シソウ)」で「使者」の削除が見られるがやはり「使徒」を採用しない。『新撰英和字典』にしても「耶蘇徒弟 使僧 (法) 控訴始末書」として「使徒」は見られない。当代において『訂訳大全英和辞書』(明治18年刊)『英和字海』(明治20年刊)『插画訂訳英和对訳新辞林』(明治20年刊)など対応訳語として「使徒」を挙げるものがある一方、収載しない辞書も見られるということで対応は一様でない。

「Lecture」項については、『哲学字彙』Ⅰ版不立項、Ⅱ版で「講義 講演」であり、『新撰英和字典』は「説法 復読 譴責 (哲) 講義 講演」と専門用語扱いで両語形を採るが、『英和英字彙大全』は「講義 説教 説法 譴責 復読」と「講義」を筆頭に挙げ「講演」を外している。いずれにせよ『英語節用集』の掲出訳語「講談」が他辞書に比して孤立的であるのは、該辞書が書中題名に角書「弁士必携」を付すことから窺えるように、「余カ此編ヲ艸スル固リ一朝ノ偶意ニ非ス 顧フニ講談演説ノ都鄙ノ間ニ行ハル、未タ現時ヨリ盛ナル者アラサルナリ 而テ之レカ弁士タル者必ス先ツ各種ノ学ニ通シ 該羅余スコトナク其蘊籍スル所ヲ流ル、カ如キノ雄弁ヲ以テ演出スルハ固リ 講談演説ノ最上乘ニシテ余輩カ喙ヲ其間ニ容ル、ヲ得ヘキ所ニ非スト雖モ(以下略)」^(注7)と「緒言」で縷々「講談演説」「弁士」の便宜を強調する編者によって編まれた事情によるものと見られる。

「Orthodox」の訳語について、『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版「正教(宗)」に対して『新撰英和字典』は「法教ヲ固ク信ズル (宗) 正教ノ」と専門用語として

の「正教」を継ぐ。『英和和英字彙大全』は「教法ヲ固ク信ズル 正シキ」としており「教法」と字順転倒語形が見られるとともに「正教ノ」を採らず和語形容詞「正シキ」としたのは、「正教」の特殊専門性に些かの難を感じたものと考えられることでもある。

「Kin」については、『哲学字彙』においてⅠ版「眷属」→Ⅱ版「親属」と訳語の交替が見られた。これに対し、『英和和英字彙大全』は「血属 親属 同族 同質 親属ノ 同質ノ 同類ノ」と掲出して「眷属」を斥けた。『新撰英和字典』は「親族 同属 血属 同質 (哲) 親属」とし、『哲学字彙』Ⅱ版「親属」を専門用語扱いで示す一方「親族」を筆頭通常訳語としている。ちなみに『和英語林集成』英和の部「Kin」項は、Ⅰ版で「shinrui enja」これにⅡ版が「yoshimi」を追加し、Ⅲ版がさらに「chisuji」を加える。「眷属」は関わりを持たず「親族・親属」でなく「親類」が挙げられるといった有様であって、『哲学字彙』で差し替えが生じたり、上述のように諸辞書で訳語の安定を見ないといった情勢が観察された。

「Selection」について、『哲学字彙』Ⅰ版は項なし、Ⅱ版で「撰択 淘汰(生)」となったのに対して、『英和和英字彙大全』は「選抜スル事 択ミ出ス事 選抜シタル物」として「淘汰」が採用されていない。『新撰英和字典』は『哲学字彙』Ⅱ版そのままを「揀選 択出 選択物 択選 (哲) 撰択 淘汰」と専門用語として掲出しており、「淘汰」の辞書収載については処理が異なる。『和英語林集成』Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ版においては、いずれも英和の部に「Selection」が立てられず和英の部で「淘汰」が立項されずといった具合であり、当代においては「Selection」－「淘汰」といった強固な訳語対応が形成されてはいない情勢に見受けられる。

「Naturalization」については、訳語が定着途上にあったことが見受けられた。『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版は「帰化(法)」と示し、『新撰英和字典』はそれを受けて「異邦人ノ入籍 (法) 帰化」と訳語「帰化」を専門用語扱いとして掲出しているが、通常訳語としての語はなく「異邦人ノ入籍」と句による説明記述の形を取るに留まった。『英和和英字彙大全』においても「外国人ヲ戸籍ニ入ルヽ事」とだけ記述し、語の提示が見られない。「Naturalization」の訳語としての専門用語「帰化」は、当代辞書編者にとって通常訳語レベルで強固な対応を結ぶものとはまでは見なされず、『哲学字彙』の業に敬意は払われながらも市川のように語掲出自体を見送るものもあったということに注目できる。

4-2-2 〔△○-〕型

『英和和英字彙大全』記述中に『英語節用集』掲出訳語は存せず、『漢語英訳辞典』においては当該訳語が見出し収載されたが、現代通用の国語辞書には結局見出し立項されなかったグループである。

〔△○-〕型データリスト

【宗応】除地/Allodium 昌盛/Prosperity ← Frosperity* 勲勞/Merit
 誠信/Faith 刑罪/Punishment 悦服/Obey 悔改/Repentance 降生
 /Incarnation 【政応】虚誉/Vain-glory 中裁/Reconciliation

「Faith」項について、『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版は「誠信」を掲出した。これに対して、『新撰英和字典』は「信 信用 誠実 信心 信仰 信約 (哲) 誠信」と該語を専門用語として別扱いで収載している。『英和和英字彙大全』が「信 信用 誠実 忠信 信心 信仰 信約 真実ニ」と「誠信」を採らずに終わったのはその専門性特殊性を検討した上での扱いであったと思われる。

「Punishment」項において、『哲学字彙』ではⅠ版項不立項からⅡ版「刑罰」訳語掲出へと展開が図られた。『新撰英和字典』は「刑罪 処置 懲治 譴責 警戒 (哲) 刑罰」と『英語節用集』採用語形「刑罪」を通常訳語列の筆頭に掲げる一方で『哲学字彙』の挙げる「刑罰」は特殊な専門用語として処遇している。ところが『英和和英字彙大全』は「刑罰 処置 譴責 懲治 警戒」と通常訳語列筆頭に「刑罰」を掲出するのであり、ここでは上述の「誠信」とは異なるように『哲学字彙』掲出語が扱われた。各訳語の検討分析において、こうしたさまざまな展開が見られることに留意しつつ今後ともデータの蓄積を図る必要性があることが改めて確認できるところである。

「Incarnation」については、訳語が成長途上にあった有様が見受けられた。『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版は「降生 (宗)」を示したが、『新撰英和字典』は該語を「肉ニテ包ム事 肉芽萌生 (宗) 降生」と専門用語で扱いつつ通常訳語列では句による説明を先行させた上で幾分句的な説明の気味がある四字漢語「肉芽萌生」を添えた。『英和和英字彙大全』が「肉ニテ包ム事 人類ト為ル事 肉ヲ生ズル事 (傷口ニ云)」と語の掲出を見送り句による説明記述に専念している様子は、やはり辞書掲載に相応しい訳語とすべきものを見出し難く感じ取っている編者の躊躇をそこに認識するに至るのである。

4-2-3 〔△-○〕型

『英和和英字彙大全』では当該訳語形が記述中に見られず、『漢語英訳辞典』においても立項されないが、該語は現代国語辞書に立項されることとなり日用の語として残るに至ったグループである。

〔△-○〕型データリスト

【宗哲】秘教/Esotericism 【宗応】常住/Unchangeable 無常/Changeable 偽計/Deceit 信心/Spirituality 永存/Persistence 輪廻/Transmission 天真/Natural 強欲/Lust 廃滅/Ruin 演説/Speech 心意/Mind 牢獄/Jail 進化/Evolution 不能/Impossible 運命/Destiny 推理/Inference 土葬/Catacombs 元始/Beginning 理想/Ideal 【人官】外道/Heresy 悪魔/Satan 幽霊/Sprite 詩家/Poet 婦女/Woman 教官/Teacher 牧師/Pedagogue 坊主/Monastic 【政法】動議/Motion 体制/Organization ← Oganization* 【政応】内政/Administ-ration 逆説/Paradox ① 公準/Postu-late 預察/Presumption 非議/Reproach 詭弁/Sophism 逆理/Unreasonable ← Anrea-sonable* 発動/Act

「Transmission」項は、『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版ともに「形質遺伝(生)」を表示する。『新撰英和字典』は「転移 運搬 寄送 透通 (物)伝導 (生)形質遺伝」と専門用語欄で採り入れる。『英和和英字彙大全』は該語の掲出をその特殊専門性の故か回避しており、「転移 運搬 送遣」を掲出することとなっている。

「Ruin」をめぐるのは、『哲学字彙』Ⅰ版不立項、Ⅱ版が「荒毀 零落 廢殘」を掲出した。『新撰英和字典』はそれを「顛覆 廢滅 瓦解 傾倒 城址(都府家屋城壘等ノ) (哲)零落 廢殘 荒毀」と専門用語欄に活かしている。一方、『英和和英字彙大全』においては「顛壊 傾倒 滅却 荒廢 墟址(都府家屋城壘等ニ云)」と『哲学字彙』掲出語全ての採用がなされることはなく、両辞書間で対応の違いが際立った。

「Speech」について、『哲学字彙』ではⅠ・Ⅱ版ともに立項がなされていない。それゆえ、『新撰英和字典』は「説話 国語 言語 演述 公言 口演」で特に専門用語記述が見られない。『英和和英字彙大全』もまた「説話 言語 国語 言葉 公言 演述 口演」と同趣であるが、その後継辞書『英和和英

袖珍字典』において「説話（ハナシ） 言語（ゲンゴ） 国語（クニコトバ） 言葉（コトノハ） 公言（コウゲン） 演述（ノベタテ） 口演（コウジャウ） 演説（エンゼツ）」と『英語節用集』が掲げた「演説」を挙げたのは興味深い。先に述べたように『英語節用集』は演説弁士の役に立つようにと編まれたものであり、それは世の動静に適ったものであることを編者は強調した。「演説」が社会に新たに普及した概念であり言葉であることはこうした出版活動によく反映しているものであるが、『英和和英袖珍字典』の反応はまさにその動きを現したものとしてとりわけ注目できるところである。

「Evolution」について『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版は「化醇【2行割注】 進化 開進」としている。『新撰英和字典』は「展開 充進 少廣 隊伍ノ転変（数） 開法（哲）開進 化醇（生）進化」と専門用語提示の中に採り入れるが、『英和和英字彙大全』は「展開 開方（算術ノ語） 隊伍ノ変化」と全てを斥けている。「Destiny」をめぐる『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版「命数」に対して『新撰英和字典』が「天運 命運（哲）命数」と専門用語として挙げたものの、『英和和英字彙大全』は「天命 命運」として「命数」を不採用としている。

「Beginning」項は、『哲学字彙』Ⅰ版で「元始 太初【2行割注】」Ⅱ版で「元始 太初【2行割注】 創始」と1語増補されている。『新撰英和字典』はⅡ版を受けて「発端 原因 来歴 本源（哲）元始 太初 創始」と3語を専門用語扱いで採用する。『英和和英字彙大全』は、ここでも『哲学字彙』に関わる3語については全て採用せず「発端 本源 創業」とのみ挙げ、「発端」が『新撰英和字典』と共通して筆頭訳語に配される。訳語間のこうした辞書記載上の扱いの違いは、当代各語の有様を知る上で種々の情報を与えてくれるものとなっている。

「Ideal」について、『哲学字彙』Ⅰ版「理想」からⅡ版「理想的 観念的」へと品詞扱い上の違いもあるが、訳語の増補展開が見られた。これを受けて『新撰英和字典』は「意ノ 想像ノ（哲）観念的ノ 理想的ノ」と専門用語欄でⅡ版記述を活用している。『英和和英字彙大全』においては、やはり『哲学字彙』の専門的な訳語の収載を止めて「意ノ 想像ノ 極美 物色」としている。「Heresy」においても、『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版の「外道（宗）」を『新撰英和字典』は「異教 異端（宗）外道」と専門用語表示で採用するが、『英和和英字彙大全』は「鬼魁」とのみ掲出して該語を採ることはなかった。

このグループでは上に見てきたように、『哲学字彙』の記述をそのまま専門用語として採り入れ活かす方針を繰り返して行く『新撰英和字典』といった辞書がある一方、『英和和英袖珍字典』は採用に踏み切ることもあるものの、その特殊性専門性について編者なりに見極め収載を見送る場合もあるということが分かる。現代通用の語として見られるものでありながら、大型集成辞書『漢語英訳辞典』で項目として立てられることがなかった事情を考える際に、こうした対訳辞書群の語彙収載状況は十分に参照すべきものであろう。また、『英和和英字彙大全』のこうした編集作業の有様は、箕作麟祥が「題言」における「本邦在来ノ英和对訳字書中ニテ最モ完全具備シタル者」という讃辞について、本書内容の実相が果たしてどう評価されるべきかということを検分する上でも、重要項目の一つとして軽視することはできない。

4-2-4 〔△-〕型

『英和和英字彙大全』掲出訳語中に一致語形が存在しておらず、『漢語英訳辞典』では不立項、『岩波国語辞典第7版』においても立項されていないものであり、現代日用の語としては使われることがないグループである。

〔△-〕型データリスト

【宗応】怒恚 /Rage 味趣 /Taste 邪執 /Prejudice 謬信 /Superstition
 崇奉 /Adulation ← Adration * 布弘 /Propagation 信約 /Credit 執意 /
 Volition 成効 /Result 敬謹 /Respectful 定道 /Predestination 出板 /
 Edition 原素 /Elements 激因 /Stimulus 智覚 /Feeling ② 習成 /
 Factitious 拝像 /Idolatry 【人官】弁者 /Eloquent 諸生 /Scholar 逸
 士 /Hermit 蕃民 /Savageness 審吏 /Justice of the peace 【政法】君政
 /Monarchy 機制 /Mechanism 性法 /Law of nature 【政応】反情 /
 Antipathy 妄論 /Paralogism 自護 /Self-defence 漸化 /Variation 【堂
 処】貧院 /Alms 屋宇 /Edifice

「Element」については、『哲学字彙』I・II版ともに「元素(物)」とし、『新撰英和字典』ではそれを反映して「基初 元素(物理学)」と専門用語注記を付して採用しており、『英和和英字彙大全』でも「元素」と該語のみを挙げる。当代英和辞書群において『英語節用集』が挙げる「原素」を「Element」の対応訳語として採用するものはなかなか見られないようであり孤立的である。

「Monarchy」項について、『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版「君政」を受けて『新撰英和字典』が「帝国 王国 独裁（ママ）国 立君政治（哲）君政」とする。これに対して、『英和和英字彙大全』は「立君政治 独主ノ国 王国 帝国」として「君政」は採用しないが、「立君政治」は編者が「君政」の特殊専門性を解決するために置き換えたものと見れば、その後『漢語英訳辞典』や現代国語辞書で「君政」が採用されていないといった事情を考える際の参照情報として注視してよいのではないか。ただし、『英和和英字彙大全』は「Anti-monarchical」の項目において「君政＝反スル」の句記述を示しており、「君政」の語を全く辞書記述から排しているわけでもない。こうしたことを含め、さらに周辺情報の集積に努める必要がある。

「Antipathy」には、『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版の「反情」を『新撰英和字典』が「抵抗心 性求ノ嫌ヒ（物）相容レザルノ性（哲）反情」と採り入れ、『英和和英字彙大全』が掲出を見送って「生来ノ嫌 嫌悪 反対」とする、これまでに見られた対応状況が見られた。また「Variation」において、『哲学字彙』Ⅰ・Ⅱ版「漸化（生） 改変（論）」に対し『新撰英和字典』は「不同 差違 変化 変 偏差 差度 化醇（文）語尾ノ変（生）漸化（論）改変」の扱いをし、『英和和英字彙大全』が「変化 不同 差違 語尾ノ変化（文法ノ語）」と応対しているのも同趣のパターンである。

4-3 〔-〕型

『英和和英字彙大全』において、当該項目の立項がなかったグループである。これらの中には下線を付した『哲学字彙』掲出のものが混じっている。それらは、編者市川が『哲学字彙』を参照していた編集工程が想定される中、掲出訳語の専門性特殊性を見定めるなどした上で、英語見出しそのものを採用しなかった事情も考えられる。ここではリスト掲出に留める。

4-3-1 〔-〇〇〕型

『英和和英字彙大全』で立項されなかったが、『漢語英訳辞典』また現代通用辞書『岩波国語辞典第7版』に当該訳語の見出し立項がなされており、現代日用のことばとして定着しているグループである。

〔-〇〇〕型データリスト

【宗哲】仏教/Buddhism 神道/Shintoism 【宗応】良心/Moral

sense ← Moralsence * 現世 /Present-world 木像 /Wooden-idol 五官 /
 Five-senses 惡念 /Evil-thought 惡業 /Evil-deed 寓言 /Phenakism 改
 正 /Meliority 怠惰 /Neglectedness 故郷 /Native-place 後悔 /
 Contriteness 行状 /Comportment 野蛮 /Barbaric 遍歴 /Extravagated
 基礎 /Founded 誘引 /Exticement 精進 /Religious-abstinence ← Religious-
 abstmence * 自滅 /Self-destruction 独学 /Self-educated 教化 /
 Humanization 天賦 /Implanted 【人官】化身 /Avatar 賢者 /Wise-man
 学者 /Learned-man 巡查 /Policeman 学士 /Scientist 聖人 /Holy-man
 宰相 /Prime Minister ← Prim Minister * 神仙 /Genii 【政法】政權 /
 Political-right 行政 /Executive-power 虐政 /Cruel-Government 除籍 /
 Denationalization 法式 /Modus 【政応】腕力 /Physical-force 全權 /
 Absolute-power 【堂処】本寺 /Mother-church 藥舗 /Apothecary-shop
 【年歴】建国 /Nationalization ← Nationali-gation *

4-3-2 [-○-] 型

『漢語英訳辞典』に当該訳語が立項されるが、『岩波国語辞典 第7版』には見出し立項されず現代日用語として残っていないグループである。

[-○-] 型データリスト

【宗応】覚他 /Tolead consciousness of otherselves 練熟 /Masterliness
 【政法】政法 /Political-law

4-3-3 [-○] 型

当該訳語が『漢語英訳辞典』で立項されないが、『岩波国語辞典 第7版』に立項されており、現代通用のことばとなっていると見てよいグループである。

[-○] 型データリスト

【宗応】涅槃 /Nirvana ← Nivana * 自覚 /Self-consciousness 自利 /Self-
 benefit 利他 /Altruism 無碍 /Unconditional ← Unconditioneal * 虚靈 /
 Spiritual existence 【人官】仏陀 /Buddha 演者 /Speech-man 【政応】
 大本 /Fundamental-principle 自制 /Self-control 自責 /Self-reproach 自
決 /Self-determination 【堂処】仏堂 /Budder

4-3-4 〔――〕型

『英語節用集』に当該訳語が掲出されたものの『英和和英字彙大全』において立項されず、『漢語英訳辞典』『岩波国語辞典第7版』でも見出し立項されることがなかったもので、現代日用語として残ることはなかったグループである。

〔――〕型データリスト

【宗応】寺法 /Canon-law ← Conon-Law* 瑞夢 /Lucky-dream ← Luchy-dream* 【人官】仏弟 /Buddhist 【政法】天権 /Natural-right 徳権 /Moral-right 法権 /Legal-right 純権 /Absolute-right 大輔 /Vice-minister 少輔 /Assistant vice minister 知府 /Governor of department 用式 /Modus-ponens 廢式 /Modus-tollen 【政応】明許 /Express-consent 通理 /Universal-truth

5 『哲学字彙』Ⅱ版の活用状況をめぐって

ここで『英和和英字彙大全』における『哲学字彙』利用の有様をまとめておきたい。各型のデータリストにおいて下線を付してある、『哲学字彙』Ⅱ版掲出訳語と一致が見られたものについて一覧にして示すと、次の表4のようになる。

表4

		項目数	『哲学字彙』Ⅱ版 一致訳語あり	
『英和和英字彙大全』 〔○〕型彙	〔○○○〕型	145	73	50.3%
	〔○○―〕型	4	3	75.0%
	〔〇―〇〕型	19	10	52.6%
	〔〇――〕型	3	2	66.7%
	〔〇〕型小計	171	88	51.5%
『英和和英字彙大全』 〔△〕型彙	〔△○○〕型	156	80	51.3%
	〔△〇―〕型	10	6	60.0%
	〔△―〇〕型	38	19	50.0%
	〔△――〕型	31	16	51.6%
	〔△〕型小計	235	121	51.5%
『英和和英字彙大全』 〔―〕型彙	〔―○○〕型	41	14	34.1%
	〔―〇―〕型	3	1	33.3%
	〔――〇〕型	13	9	69.2%
	〔―――〕型	14	6	42.9%
	〔―〕型小計	71	30	42.3%
総計		477	239	50.1%

まず上表〔○型〕において、〔○○－〕型の数値が75.0%と高いことが目を引く。この群は、明治20年代の『漢語英訳辞典』に立項されることから少なくとも対訳辞書世界ではそれなりの座を占める訳語であったことが窺える。ただしそれが学術専門用語としての訳語語形としての地位であったために、現代において廃語となったものも存するだろうけれども、一方では通用の国語辞書において立項されない位相のものとして語形自体は専門領域のものとして存続しているというものもあるかと思われる。そうした実相を明らかにする上での基礎的データとして、今後活用を図りたい。その対極として、例えばリスト掲出のみにとどまった〔－○〕型などにおいては、明治期資料でやや見られない傾向にあるが現代日用国語辞書において見出し立項される扱いとなっているといったものもあり、語彙個別の事情等についてこれらについてもさらに興味深く追究したいと思う。

おわりに

第二次英学書ブーム期初め、明治10年代半ばに世に示された学術用語辞書『哲学字彙』が対訳辞書世界に与えた影響は大きかった。『英語節用集』など小規模語彙集においてその利用が積極的に行われるといったこともあるし、『新撰英和字典』のように『哲学字彙』の示した内容の多くを受け容れ利用する辞書も現れるに至った。そのような中で、『英和和英字彙大全』は『哲学字彙』の掲出状況に対して編者の判断において取捨選択し、あるものは採り入れあるものは不採用とするなどしている。こうした有様は、当代の訳語語彙の動向を把握分析する上でこの上ない情報を提供するものである。こうした語彙情報の収集について弛みなく作業を積み重ねデータの蓄積を図ることが、日本近代語語彙研究により繊細な分析検討をもたらしものとする。今後とも引き続き対訳辞書資料における収載語彙の調査研究を重ねて行きたい。

◎本稿は、平成29～令和3年度科学研究費補助金基盤研究(C)：研究課題「福岡に残る洋学資料コレクション筑紫文庫資料を主対象とした近代対訳辞書の基盤研究」の成果の一部を活かしたものである。

【注】

- 注1 屋名池（1991）において、安政6年から明治6年までを第一次英学書ブーム期、明治15年以降を第二次英学書ブーム期とする区分が示されている。
- 注2 国立国会図書館デジタルコレクションにて公開されている刊本を調査対象とした。
- 注3 『英語節用集』本編の構成は次の通りである。（ ）内は本稿における各部門の略称。
 宗教及哲学論派名称（【宗哲】）：135項目／學術名称（【學術】）：61項目／宗教家応用語（【宗応】）：284項目／人品及官位（【人官】）：160項目／政治及法制（【政法】）：123項目／政治家応用語（【政応】）：93項目／堂屋及処名（【堂処】）：40項目／年代及歴史（【年歴】）：18項目。このように本編は上記8部門に分かれている。総計914項目を節用集風味の構造で配置したあと、「各国政体及宗教」部を巻末に付録として添える。本稿のデータリスト掲載の際に、「←」の記述は英字綴りの単純な誤用と稿者が判断して英字綴りを仮修正したものである。「（修正された綴り字表記）←（誤用等と判断した原綴り字表記）」の要領。英字見出し語形末に①②のように付してあるものは、『英語節用集』において重複立項されたもので、先行掲出のものを①とした。各リストにおけるデータ掲出は、『英語節用集』内の出現順序に従って配列しており、したがって本編の部門別に並ぶこととなっている。
- 注4 表1において、明治14年刊『華英字典』は第二次英学書ブーム期Aとして分類し、明治15年～19年刊のものを同B i、明治20年代のものを同B iiとして便宜上分けた。
- (1) 第一次英学書ブーム期に関連するものとして、『英和掌中字典』（明治6年刊）と『写真石版附音挿図英和字彙』（刊行は明治18年であるが、第一次ブーム期刊本の復刻版であるため、こちらに分類する。）。
- (2-A) 第二次英学書ブーム期初期において出版された中国系対訳辞書として、『華英字典』（明治14年刊）。
- (2-B i) 第二次英学書ブーム期のうち明治10年代半ばから後半にかけての国内対訳辞書グループとして、『英和袖珍字彙』（明治17年刊）『学校用英和字典』（明治18年2月刊）『英和正辞典』（明治18年9月刊）『新撰初学英和辞書』（明治18年10月刊）『訂訳大全英和辞書』（明治18年10月刊）『新撰英和字典』（明治19年6月刊）。
- (2-B ii) 第二次英学書ブーム期のうち明治20年代の国内対訳辞書グループとして、『英和字海』（明治20年1月刊）『英和小字彙』（明治20年5月刊）『插画訂訳英和对訳新辞林』（明治20年10月刊）『新訳英和字彙』（明治21年3月刊）。
- (3) 明治20年代大型集成的対訳辞書グループとして、『漢英対照いろは辞典』（明治21年刊）『漢語英訳辞典』（明治22～25年刊）。
- (4) 現代日用国語辞書の一として『岩波国語辞典7版』（平成24年刊）。
- 注5 坂本（2021）参照。以下、『新撰英和字典』に関するものについては一部同論文で言及した部分もあるが、本稿においてさらに記述を追加するなどして取り上げた。
- 注6 『英和袖珍字典』におけるフリガナ表示は適宜（ ）に入れて示す。
- 注7 『英語節用集』「緒言」より。本稿の調査に用いたのは、大阪府立大学（旧大阪女子大学）蔵本。詳しい書誌情報等は原口（1991）を参照のこと。

【参考文献類】

- 豊田 実 (1963) : 『日本英学史の研究』新訂初版 千城書房
- 原口 裕 (1991) : 大阪女子大学附属図書館編『大阪女子大学蔵蘭学英学資料選』 第2章
「単語集・会話集」
- 飛田良文 (2007) 『日本語学研究事典』(2007 明治書院)「英華・華英事典」項
- 森岡健二 (1969) : 『近代語の成立 明治期語彙編』 明治書院
- 屋名池誠 (1991) : 大阪女子大学附属図書館編『大阪女子大学蔵蘭学英学資料選』 第1章
「綴字書・運筆書・横文字紹介書」
- 湯浅茂雄 (2005) 英和字彙系の一書、『新撰英和字典』の資料性について (近代語研究会編
『日本近代語研究4』 ひつじ書房)
- 坂本浩一 (2021) : 明治期日欧言語交流史の一研究 —— 井波他次郎纂訳『新撰英和字典』
における訳語収載状況をめぐって —— (『文藝と思想』85号)